

北海道議会議員
Go forward! 北海道 たけだ浩光 道政通信 ひろみつ
所属会派：民主・道民連合
住みやすい『西区』、そして『北海道』をめざします!
発行：たけだ浩光政務事務所 〒063-0811 札幌市西区琴似1条7丁目1-35 ☎011-624-8030 FAX 011-624-8031




第1回定例道議会 “2025” <2.19~3.18>

第1回定例道議会は2/19開会し、冒頭、通常及び国補正分を合わせて2024年度一般会計最終補正予算664億8,315万円を可決し、総額3兆3,345億となりました。

一方、2025年度一般会計予算案は、3兆504億6,500万円で、前年度当初予算額比較では290億（1.0%）の増となり5年連続の3兆円越えとなりました。

しかし、借金返済が歳出の2割を占め、道の財政状況は全国で最悪の状況が続いています。今回の代表質問には民主・道民連合から梶谷大志議員（札幌市清田区）が立ち、2期目折り返し地点での公約進捗状況や今後の達成に向けた取組などを質しましたが、知事の答弁は「より多くの声を伺い、安心して暮らし続けられる北海道の実現に取り組む」の繰り返しでした。今定例会では、私、武田は予算特別委員会の第3分科会で委員長の任を預かったこともあり、委員会では時間的に3つの質問に限らせていただきました（後述）。最終日には、私から総務委員会報告をして定例会閉会となりました。

第4回 ミニ道政報告会！【日時】：2025年3月20日（木）10時～ 【場所】：山の手会館

第1回北海道議会定例会の閉会日翌々日の3月20日（木）に、第4回目となるミニ道政報告会を開催し、参加者8名程度のごじんまりとした中で、皆様に議会最新情報の提供をさせていただきました。参加者の皆さんありがとうございました。皆様からのご意見を交えながら、自由な感覚で思ったことを皆様と懇談をさせていただきました。

貴重なご意見ありがとうございました。地域の課題解決に向けた取り組みや、今後の議会活動に反映させていただきたいと思っております。次回は、別の地域（未定）で開催予定！



<主な出されたご意見>

- ◎議会では、与野党のバランスや構図が明確でないと、議会議論が伯仲せず馴れ合い感を感じる。（例えば、札幌市議会はほぼ会派が与党化だ。）
- ◎国の借金体制、道の財政難に対し、何らかの対策はとれないものか。
- ◎西区にも出役しているが、クマ対策は着実に進んでいるのだろうか。
- ◎今後、北海道農業を維持していくために、後継者育成も含めもっと資金援助をするべきでは。
- ◎病院の赤字経営が言われる中、高齢者の病院受診も大変だ。病院の役割の特化も必要なのでは。
- ◎道内の観光施策をもっと考えるべき。（例えば、1日1往復便の紋別空港の活用など）・・・等々～その他、多くのご意見ありがとうございました～

核今さら聞けない… 原発

原子炉とプルトニウム

今回は、広島と長崎に落とされた原子爆弾について紹介しました。その後、戦後における核兵器のあり方などについては皆さんがご存知のとおりです。

当初、原子炉は核兵器の原料であるプルトニウム-239を作るためのプルトニウム生産炉でした。しかし、戦後アメリカ、ソ連などの大国を中心に、核兵器を世界に拡散させない（持たせない）ために、核の平和利用と称して、発電用の原子炉が作られていくこととなります。でもこれは皮肉なことに、原発でウランを燃料にすることで、どんどんプルトニウムができることになってしまいます。長崎大学核兵器廃絶研究センターの調べでは、日本が原発の使用済み燃料から取り出したプルトニウムは、2022年末で45.1トン保有しているとなっています。これを理由に「日本は核武装を考えているのでは？」と疑いの目を世界から向けられているとも言われています。

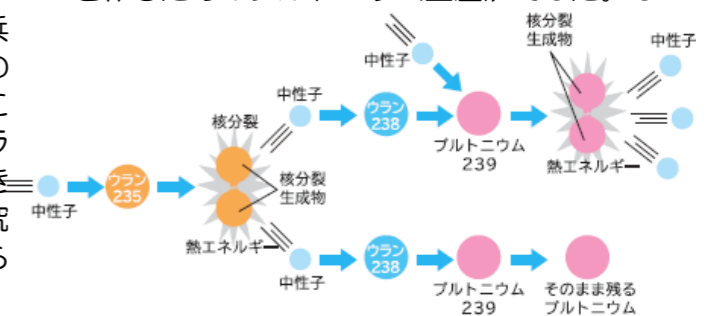


図1. 原子炉の中でプルトニウムが生成されるしくみ（北陸電力HPより）

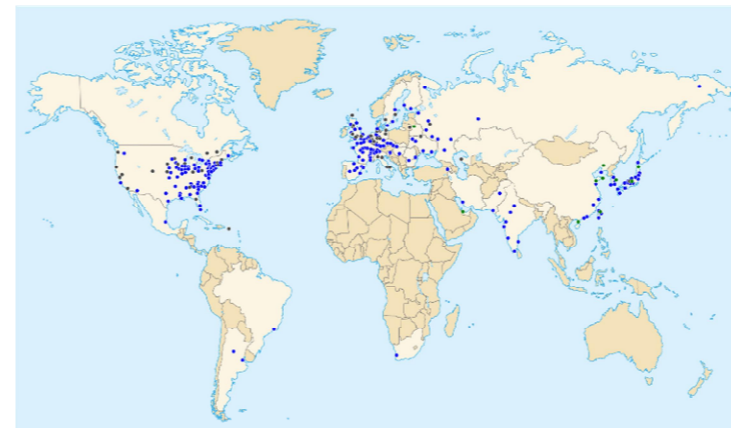


図2. 世界の原発の位置（濃い茶の地域は原発を持たない国）

日本の電力業界などは、日本が保有するプルトニウムは「原子炉級」であり、兵器用に適さないと主張してきました。米政府などは、プルトニウム-239が93%以上のものを「兵器級」、それほど高くないものを「原子炉級」と分類しています。これに対し、「間違いなく作ることができる」と断言するのが、米国のNGO「憂慮する科学者同盟」上級研究員のエドウィン・ライマンです。「原子炉級で核兵器が作れないと主張することは、核物質を厳重に守る理由を失いかねず、危険なウソである」と指摘しています。1997年に米エネルギー省が発表した報告書も、「原子炉級プルトニウムでも、より高度の設計技術を用いればより

大きな破壊力を持つ核兵器が生産可能」と結論づけました。IAEA（国際原子力機関）でも、プルトニウムが原子炉級か兵器級かにかかわらず、1発の核爆弾が作れる可能性がある量をプルトニウム8kgとしています。こうしたことから見ても、核兵器を作らないのは意図の問題であって、技術の問題ではないはずです。原子炉級プルトニウムを約45トンも持っていないというのは、説得力に欠けていると、私は考えますが、みなさんはどうですか？

たけだ浩光プロフィール

- 【すまい】 西区西野（在52年）
- 1960年 江別市生まれ
その後、すぐ札幌へ
- 1979年 北海道立札幌西高等学校 卒業
- 1980年 北海道大学水産学部 中退
- 1985年 北海道大学医学部附属
診療放射線技師学校 卒業
- 1985年 札幌医科大学附属病院勤務
- 2019年 北海道議会議員 初当選
- 2023年 北海道議会議員 二期目当選

〒063-0811
札幌市西区琴似1条7丁目1-35 さんばちビル2階
TEL:(011)624-8030 FAX:(011)624-8031
e-mail : info@takeda-hiromitsu.com



たけだ浩光 オフィシャルWebサイト

たけだ浩光 検索

オフィシャルWebサイトで道政通信のバックナンバーがご覧いただけます



(4) 陸稲について 昨年訪問したオホーツク振興局で、水田と変わらぬ美味しい陸稲の米をいただいた。網走の特性を考慮した試作段階の米だが、陸稲について見解があれば伺いたい。

【生産振興局長】 道東で陸稲栽培に取り組む生産者がいることは承知している。新たな米生産をめぐるときの動きについては、情報収集してまいる。

これからの食料安全保障という形の中で、ぜひ道の果たす役割をしていただきたい。

(5) 今後の取組について 米は、北海道における生産供給が重要と考える。令和9年度からの国の水田政策見直し開始を踏まえ、道として、今後の稲作振興の取組を伺う。

【農政部長】 北海道米の安定的生産・供給は重要と考える。水田政策の見直しを踏まえ、多様な需要に対し安定的供給を図れるよう、北海道米の生産振興や稲作経営の安定に取り組んでまいる。

3 エネルギー政策について 【3月13日(木)】

“質疑応答は、次号の道政通信第36号にて報告します”

お知らせとお詫び

<エネルギー政策について>

1 高レベル放射性廃棄物の最終処分場について

- (1) 北海道における特定放射性廃棄物に関する条例について
- (2) 最終処分方法の妥当性について
- (3) 最終処分地の選定プロセスについて

2 泊原発再稼働について

- (1) 北海道の電源構成について
- (2) 今後の再生可能エネルギーの見込みについて
- (3) 今後の電力需要の見込みについて
- (4) 泊原発再稼働について



第1回定例道議会の予算特別委員会で、もう1項目「エネルギー政策」について質問をしておりますが、大変申し訳ありませんが、紙面の都合により次号にてご報告させていただくことをご理解願います。

本当に、ゴメンナサイ。なお、質問内容は左記のとおりです。



(かしくらななみ)
 <インターン生> 柏倉 七海
 生年月日：2004年12月10日
 出身地：札幌市北区
 出身大学：札幌大谷大学社会学部
 こんにちには！札幌大谷大学社会学部の柏倉七海です。インターンシップに参加した理由としては、新しいことに挑戦したかったからです。趣味は、SEVENTEENという韓国アイドルを応援すること、旅行に行くことです。LIVEに参加するために渡韓したり、観光で国内の色々な所に行きました。

【武田道議へ一言】
 まず、2ヶ月間たくさん貴重な体験をさせていただきありがとうございました。色々な面でサポートをしてくださって新しい考え方も気づくことができました。武田さんのおかげで最後までやりきれたと思っています。最初はとても緊張していましたが、この2ヶ月間とても楽しみながら学ぶことができました。今回武田さんのもとでインターンシップに参加することを決めて本当に良かったです。改めて、2ヶ月間ありがとうございました。

<インターン生> 伊藤 奈帆 (いとうなほ)
 生年月日：2004年6月16日
 出身地：札幌市北区
 出身大学：北海学園大学経済学部
 野球観戦が趣味です。エスコンにたくさん通う私のおすすめグルメは『かわむら出汁茶』の飲む出汁と『umai』のためぎょうどんです。『umai』では選手とのコラボメニューも出るので、毎回食べてます。初めての方におすすめするのは『HOTDOG FUN』のシャウエッセンのホットドッグです。結構な行列を待たなければいけないのですが、行く価値あります。またビールが好きな方は『そらとしば』のクラフトビールも是非。好きな選手は奈良間大己、中島卓也、伊藤大海です。

【武田道議へ一言】
 まずは2ヶ月間ありがとうございました。はじめは不安な部分が多かったのですが、サポートをさせていただきとても楽しく自分とたくさん向き合えたとても有意義な2ヶ月間になりました。貴重な体験をさせていただきありがとうございました！

<担当スタッフ> 塩田 拓実 (しおたたくみ)
 生年月日：2005年12月16日
 出身地：恵庭市
 出身大学：北海学園大学法学部
 今回スタッフとして、武田道議とともに活動させていただいた塩田拓実と申します。趣味は映画鑑賞です。見ているアクション映画の影響もあり、来年からはライフル射撃部に入部したいと考えております。よろしく願いいたします。

【武田道議へ一言】
 今回私はスタッフとして活動に参加させていただきましたが、インターン生に負けないほど政治や地域について、ほかにも様々な大切なことを学ぶことができたことと自負しております。2ヶ月間という短い間ではありましたが本当にありがとうございました。



インターン生が来ちゃー!

“第1回定例道議会 予算特別委員会”

1 道内林務関係職員のヒグマ対策等について【3月11日(火)】

<北海道の森林面積は、道民1人当たり約1ha!!>

(1) 林務関係職員の業務について 職員の山林現場に入るべき業務と、その頻度について伺う。

【総務課長】 森林整備、治山、路網整備など各種事業における現地調査、工事監督及び検査業務のほか、保安林や林地開発の現地確認、木育事業の開催など多岐にわたっている。頻度も、季節・天候・地域などにより異なるが、概ね週の大半で現場業務に従事している。

(2) ヒグマへの安全対策について 昨年6月、空知総合振興局職員のヒグマに襲われた事故を教訓に、安全対策強化のため入林時のマニュアルの定めと、遭遇時の実地訓練の頻度について伺う。

【総務課長】 道では事故を受け、専門家等の協力のもと、事故検証を行い、緊急退避時のマニュアルを改めて整理し、チェックシートとして携帯するよう徹底を図っている。また、遭遇時等の対処方法、クマ撃退スプレーの実射訓練や負傷時の応急手当などの研修を実施し、来年度以降も継続実施としている。

<再質> 現在、入林時の複数人実施ができていますか伺う。また、職員1人当たりの研修頻度と市町村との合同実施も検討したらよいと思うが、所見を伺う。

【総務課長】 業務命令を複数人で発しており、現場での声掛けを実施している。また、研修会は定期異動後の開催を基本としつつ、新規採用者にみならず、既受講者も繰り返しの受講を推奨している。合同研修については、効率性や地域状況等に応じ、希望があれば協議してまいる。

<指摘> 先月、日高振興局を訪れる機会があり、森林室の職員の方と話し機会があった。やはり、1人が一番恐ろしいとのこと。是非、各振興局への複数人の徹底をお願いする。

(3) 森林づくりについて 人とヒグマの空間的棲み分けを図る「ゾーニング管理」において、針葉樹・広葉樹混交林の育成を進めることも必要と考えるが、広葉樹資源の育成に対する所見を伺う。

【森林海洋環境局長】 多様な樹種が育成する森林づくりを率先して進めてまいる。適切にゾーニングができるよう市町村への支援や天然力を活かした森林づくりのため、広葉樹資源の育成を図ってまいる。

<指摘> クマとは離れてしまうが、大船渡の森林火災などを見た場合、北海道も他人事ではなく、災害にも強い森林づくりを是非進めていただきたい。

(4) 今後の取組について 新年度からは、新人も従事することから安全対策に万全を期されたい。

【水産林務部長】 現場の安全管理が何より重要だ。新年度も引き続き安全装備品の配備や実践研修の繰り返しなど、全ての振興局に対し人事異動後に改めて安全確保対策を強化してまいる。

<指摘> 何事に対しても訓練は必要だ。環境生活部とも情報共有して取り組んでいただきたい。

2 道内の稲作振興について 【3月11日(火)】 <どうする？令和の米騒動！>

(1) 作付方式の違いによる水稲作付面積の推移について 近年注目を浴びている「乾田直播」は増加傾向と聞かすが、5年前と比べ道内の水稲作付面積における乾田直播取組面積の推移について伺う。

【水田担当課長】 5年間で、水稲作付面積については1万7000畝減少し、乾田直播の栽培面積は2,000畝以上増加している。

(2) 乾田直播の増加要因について 「乾田直播」の作付面積が増加している要因について伺う。

【水田担当課長】 労働時間が5割削減され、省力化が図れるとともに、畑作物の播種機を活用できる栽培方法であることから、空知管内で増加している。

(3) 乾田直播とスマート農業との親和性について 労働時間の短縮・省力化は、若手新規就農者を募る上で非常に魅力的だと思う。そこで、道内の農業改良普及センターの対応状況について伺う。

【技術普及課長】 栽培マニュアル作成・配布や栽培技術の講習会の開催に加え、水稲の育成ステージに合わせ技術支援を行うほか、関係機関・団体と一体となって乾田直播の普及促進に努めている。

<指摘> メタンガス排出量を抑えられている乾田直播との組み合わせが必要と思う。今後、その需要に伴う相談など普及センターの人員の適正配置にも務めていただくようお願いしておく。

